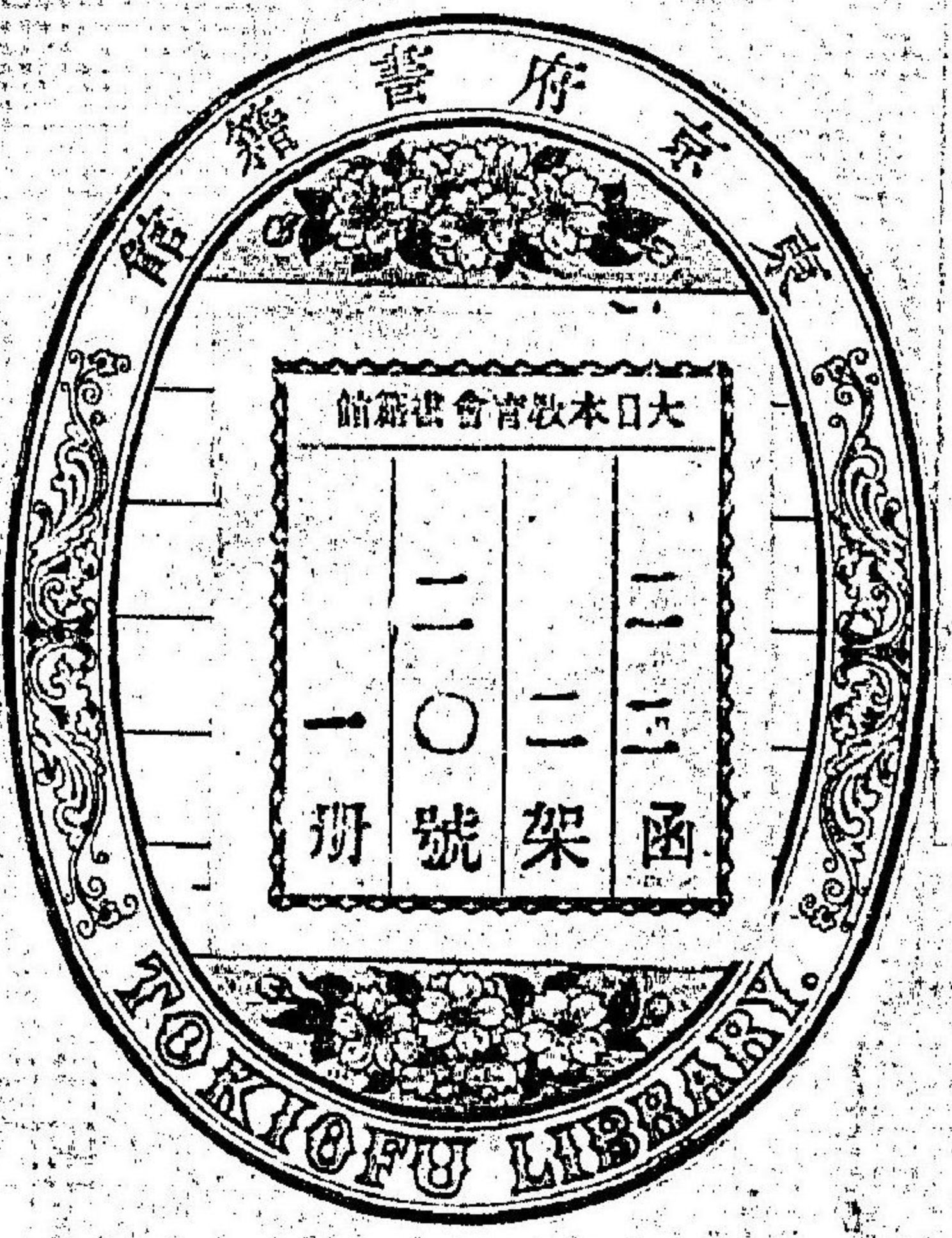


東方  
眞平著  
勸農文  
全



420  
全  
一  
本

明治七年十二月廿五日許

加賀

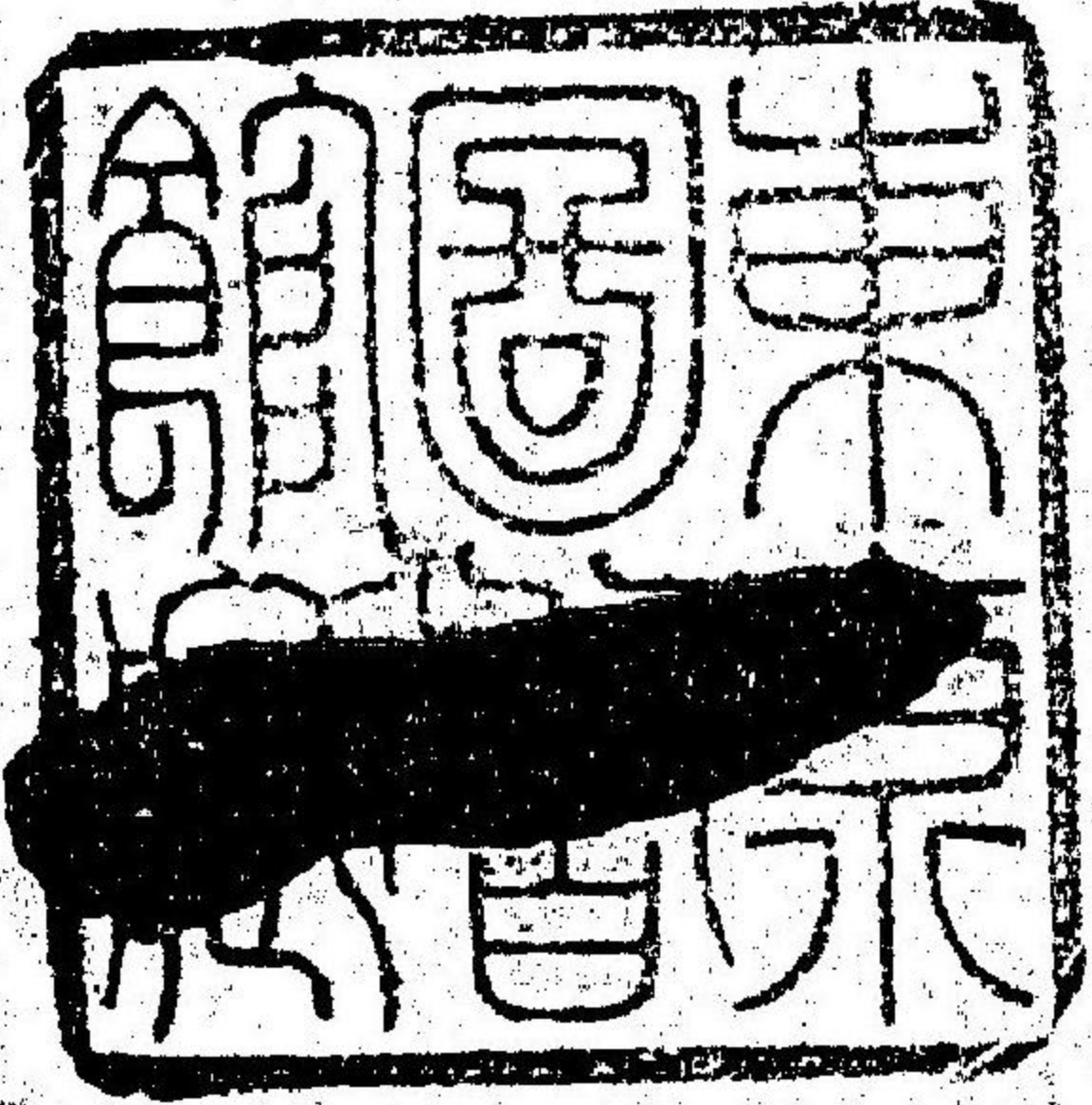
東方真平著  
塚谷 淺書

小學  
讀本

勸農文

書肆 文林堂發兌

特39  
420



沈

卷六

己亥二月



符例

關字、句讀ノ符トス漢籍ニ明人モ小西飛驒守行ノ

繆句アリ國字ニモ弁クテ誤讀アリ文盲ノ

勿論ナド書法モ亦善ク盡サレニシテ此文半字

カリ少關ヲナシテ他句ニ接讀スルニ能ハサラシム

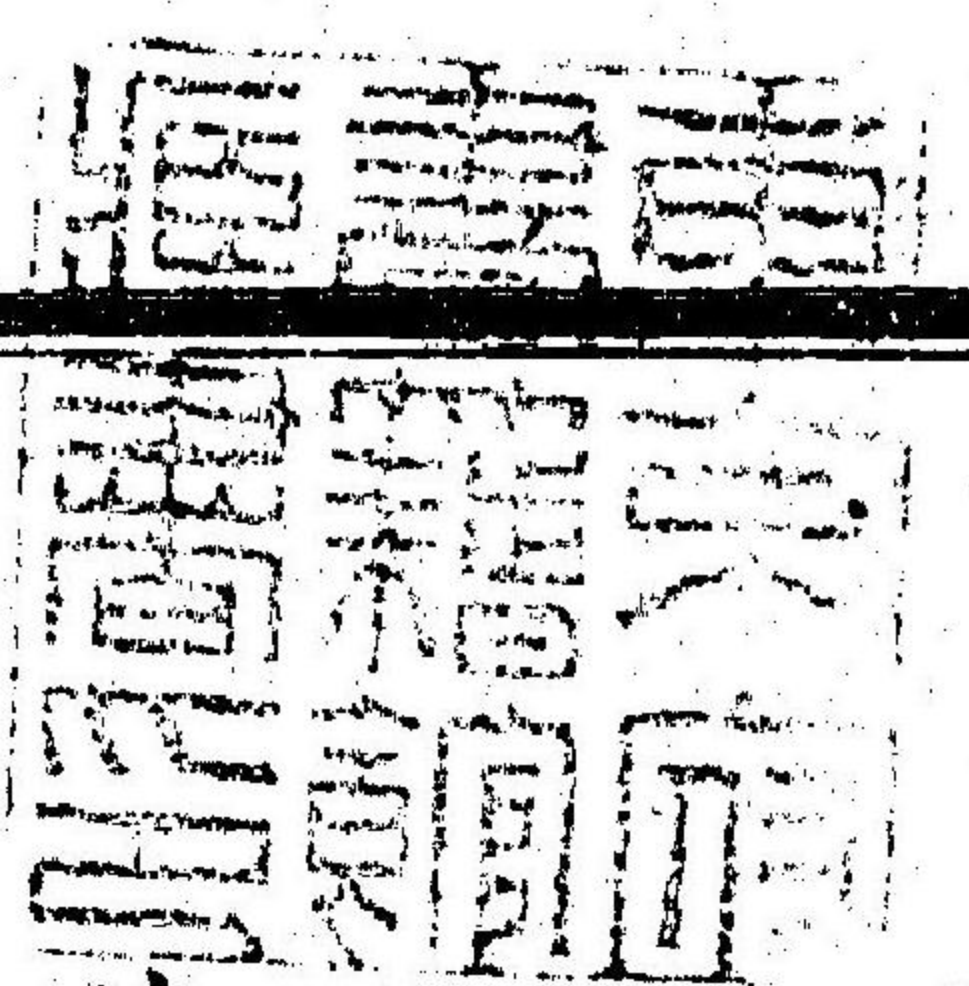
其句一行終リテ下ニ餘白キトキハ次行ノ首ヲ低

ケテ關ヲナス

……接續符トス古來中央左右上處ヲカテ音ニテ續

クト訓ニ續クラ分ク共此文ハ夫ト異ナリ唯一句ノ

次行ニ跨ルヲ示スモノナリ



力中長

濁符トス古来ノ例ノ如シ

○……………半濁符トス 輓近ノ書ニ見ユ半濁トハカニ行ニ  
アリ大抵閉音ヨリ續クカ行字閉音ヨリウツルカ  
行字ナリ 縦今カ行ニ加賀 嶺 嶽 鎰 鷺 嗅 影  
田子ノ浦ルイカ行ニ合羽 立派 雜費 半臂 ニヤツ  
アカツベキ 合抱ルイ 皆音便ニ生ルナク入色ノ  
ツ字ライ冬クモトス入色ノ字ト松原 葛原ノ  
字ト異ニシテ 妻ヲノミテ 入色ニスルモノ專ラ真平  
ノツノ如シ

△…………… 拘音符トス 他書未タ見ス 此文特創制表シテ

カ行ニ施ス元来カ行ニワ平ウエヲニ似タ音ナ  
リ殊ニ多トス 大師ノいろは歌ハ此音ヲ  
示スモノニテ 色バ 香トド 今叶コヘテ 醉モ  
セズト是ナリ 後世不察 忌ハシキナト云テ  
雨フレハノ歌ヲ作り 遊ニ原歌ノ用ヲ没シタ  
リ 今此音ヲ引起シテ 此符ヲ施ス  
登 鐵 貝 洗 味 鼎 家 佐 保 大 分  
ルイ

右ノ諸符大抵見ナレタルヲ取レテ實ハ我ヨ  
リ古ラナスモノナリ 潜諭ノ罪ヲ大方君

子ニ得ニ可畏ケレト又一々見答メ善ラ  
責玉ヒ文明ノ助ニモナリ大固ヨリ辞  
セサル所ナリ

真平謹識

東方  
真平著勸農文

上篇 天地

田<sup>タ</sup>畠<sup>ハタ</sup>ノ道<sup>ミチ</sup>ハ押<sup>オシ</sup>ナベテ 賤<sup>シヅ</sup>ガ務<sup>ツメ</sup>ハ  
ル業<sup>ウヂ</sup>ナレバ工夫<sup>クフ</sup>各<sup>オノ</sup>別<sup>ベツ</sup> 學<sup>ガク</sup>問<sup>モン</sup>モ  
イラヌト大<sup>オホ</sup>概<sup>ガイ</sup>オモヘ共<sup>トモ</sup>其<sup>ソノ</sup>種<sup>タネ</sup>ツ  
モノ尊<sup>タカシキ</sup>ハ天<sup>スミラ</sup>皇<sup>ミコト</sup>ヲ初<sup>ハジ</sup>トシテ

青人草ノ玉ノ緒ヲ此ニツナガ  
 又者ヅナキ夫故農ハ國ノ本  
 本固ケレバ國安シ古來ノ格  
 言御代々々聖帝明王ノ必  
 奉スル所ナリ國ノ安危ノ係ル  
 道何トテ學ノナカラシヤ支

那ノ古敬テ時ヲ授ト見ベタルハ  
 學ノ教始ナリ是ニ續テ孔夫  
 子カ其孝經ノ庶人章天地  
 ノ事ヲ説出ス寒暑ノ往來  
 季ノ順序則時ニテ天地ノ作  
 用ナリ因ニモ統ニモ先篤ト天



地ヲ知ズニナルベキヤ去共支那  
ノ其時分 渾天宣夜周髀  
ナト真ノ事ハ谷ヲ子ハ月日ノ  
蝕サヘ折々ハ間違位ノ事ナリ  
シ後世ホドハ物事カ關ケテ  
アレバ伊勢曆 推歩ノ巧ハ

古ニ駕スル位ノ事ナレバ 百姓  
ナトハ夫ヲ見テ彼岸ニ土疆  
ハ專ナト覺テヨビモヨケレトモ  
中段下段カ多シテ 此方ム  
カヒテ種蒔ス此ハ鬼門シヤ  
金神シヤ 今日ハ黒日シヤ 血忌

ジヤノ 天一天上 往亡ナド 知  
 タガ人ノ 大病ニテ 一生不治ノ  
 陋僻ト ナルモ 往々アルツ 天ハ固ヨ  
 リ 空虚ナリ 空虚ノ際ニ 太陽  
 麗ル 太陽ノ 體ハ 至々大 至圓  
 ニテ 萬古不 變ノ 位地ヲ 占

温ト 光トノ 源ヲ ナス 其周 邊ヲ  
 数ハツノ 遊星 アツテ メクレルガ  
 地球ト云テ 我々が 住メル 世界  
 モ 其星ノ 第三番ノ 一ツナリ  
 宜其 体ノ 丸クシテ 自轉公 運  
 止サルヤ 北ト南ヲ 軸ニシテ 一西カライ

東ノ方向テコロコロブラ 自  
轉ト云又軌道トテ 橢圓ナル  
地球ノアルク定海道 コロヒカテ  
ラニ進ニ行 コラ公運ト 名付  
タリ其公運ハ歳ヲナシ 自轉  
ハ晝ト夜ヲナス 自轉三百六

十五余 始テ軌道ヲ一周ス  
一周則一年ナリサテ又球ノ総  
てハリ三千三百零アメリ七萬  
九千四百方里 北ト南ヲ 經  
トナシ西ト東ヲ緯トシテア  
子ク線ヲヒキマハシタテヨコ三

百六十度 經ノ真中 直角ニ  
テジレル緯ヲ 赤道トテ 太陽直  
下ノ處トス 夫ヨリニ方ヘフリ分  
テ 北モ南モ 皆九十度 分テ  
三ツノ帶トナス 熱ハアツサガツヨ  
クシテ 寒ハサムサミタヘガタシ

只其中ノ正帶ノミ 寒暑程  
ヨク 四時ヲナシ 禽獸多ク 育  
テトモ 人ヲ害スル 猛物ナシ 田畠  
ヲ 熟ク 耕セバ 五穀ハ穰々 屋ニ盈  
我皇國ハ 亞細亞ナル一大洲ノ  
カタホトリ 此正帶ノ最中ナ

リ帯ノ別ル、事モ亦此太陽  
ノ遠近テ自ト出来ルコトナレバ  
天ニモ地ニモ類ナキタツタ一ツノ  
物ニシテ太陽コソハ崇トケレ備  
御月サテ昔カラ並ベテウマニウ  
物ナレド地球ニ附属ノ一小星

八星尙アリ 総數八十有八ノ  
多サニテ日ニ比レバ驚ホド違ツタ  
モノカラ海潮ノミ満干ヲモナセ  
地方ニハ關係事ノナヒモノヅ  
又雷モ其通り七十二候ノ  
中ニイレ發聲ノ収ノト啓閉陽

氣ノ微トナス我日ノ本ノ慣シモ  
稻ノ妻ジヤノ交合ノト五穀ノ胚  
胎原ノヤウ云傳ルモ皆惑ヒ越  
列機<sup>レ</sup>的見ト云モノヲ知ラサルカ  
ラノ事ナレバ起ル所カラ起ルトシ  
テ雷ニテ指置方ガヨヒ若震<sup>レ</sup>尖

ガ懼<sup>カ</sup>シクバ避<sup>ク</sup>ル器械<sup>キ</sup>テ避ラレ<sup>ル</sup>何  
ニモ子細ノナイイ<sup>レ</sup>シヤ丸ヒ地球ノ  
其上ツララスキア<sup>ラ</sup>セス團子<sup>ダン</sup>ニ  
黄ナ粉<sup>コ</sup>一<sup>ツ</sup>ブセタ様ニ色ミタル物  
ヲ名付テ空氣トス空氣ハ靜  
ナ時ノ名テ走<sup>シ</sup>ハ風ト呼<sup>フ</sup>ヒ做

セリ 手ニコソトレ子 目ニミヘ子 細  
ニ分折々々スル時ハ 四ツノ元素ノ  
瓦斯バカリ 酸ナリ 窒ナリ 炭水  
也 酸ハ生氣養氣トモ 窒ハ硝氣  
淡氣トモ 云名カアツテ 動物ノ  
資テ養フ所ナリ 其分量ハ

二トハト 水ハ濕フ 氣ト云テ 陰晴  
ニヨリ 差異ヲナス 一例以テ 云  
カタシ 炭モ高下ニ別アレト 大抵  
千ノ一ト云 至テ毒ナル物ニシテ  
血肉類ガ 此ガスヲ 吸収スレバ  
卒倒スサレモ 二素ハ 植物ノ 資テ

養フ所ナリ其故空氣ハ御  
月サレ雷ナシト、事變リ田畠  
ニ大事ナ物ニシテ此氣ナケレバ養  
レヌ肥糞ト云モ性分ハ則炭酸  
安摩尼亞四素ノ輔ヲナスバカリ  
外ニカバツタ事ハナシ此頃出来

夕新聞ニ津田某ガ西洋ヨ  
リ空氣ヲ土中へ送りヨミ大  
有カノコヘナリト云テ御越夕事ガ  
アル空氣ノ四素ヲ熟知シテナス  
業ナレバ間違モナシテアロウト思

ハル、今日某已ニ農業三事ノ選書  
アリ有志ノツイテ視ルベシサレ花精キ



分方ハ吉密ニ上手ナ人ノ術百  
姓ナドノ出来ヌ事只アラマシラ  
心得テ追々實地ニ試験セバ真  
有用ノ事ナラシ夫ラ固僻ニナ  
レソミテ方位方角吉凶ナド  
惑ヒ迷フテ上ニモ云巴力不治

ナル持病モテ私ニ奉スル舊曆  
ニ其名ヲ付テ体モナク徳川  
ナド、云ナ努カ

勸農文上篇終

東方  
眞平著 勸農文

下篇  
植物性質

植物モ動物ト同ジ生活物

ナレバ外ノ姿ハカハレ共内部ノ

機關ハ似タモノテ生機ノニカ

モ同キガ 鉄タレハ只一ツ身

ラ動スノカノミ 晝夜寐々然  
トシテ上下ニバカリ生長シ漸  
周圍ニ蕃衍ス 備感觸ト云  
物ハ松ノ木モツテ 驗スルニ人若  
傷ヲツケヌレバ 脂油ヲ出シテ皮  
ヲ成シ 自分ガテラニ 能療ス

下ニ溜池アルトキハ 水ヲ臨テ翠  
ヲ垂レ上ニ繁樹ノアルトキハ 先ハ  
偃テ横ニヒ 透間ヲ求テ杪ヲ  
出ス 雨デモ雪デモ 降續ケハ 鬚シ  
ボツテヨク防グ 蔦マ 葎ノ蔓物  
モ 右旋ハ 右旋 左旋ハ 左 定

テリアルラ 若人ガカカへ置トキハ一  
晩ニ本ノ通ニニキナホル絲モテク  
リ付ヌレバ不日ニ枯ト云事ジ  
ヤ允テ草木枝ヲタメ倒ニナセ  
ハ直様ニ木末カシヤント起反リ  
必朝天モノヅ 植皆然リ 猶動

ノ手足ヲカベテオカレヌト何  
モカハリバナイフヅヤ、敏ナルハ會  
羞草チヨツト觸レバ直シボム又  
首蓆ハ農家ノ風雨針ニモ  
代ベキホド 風雨ノ感覺イテシロ  
シ其外種子ノ甲拆ル液イ

総身運深スル花ノ開モ實ノ  
ナルモ皆生カニヨレルナリ  
機カト云者ハ吸取ル液ヲ  
部ニテ已カサメテモ子て  
キ様ニナスカ此カノミ  
草毎ニ  
チガビ本毎ニカハルユヘ  
理ヨリ

香色味ニテ齊キ物ハサ  
ラリナイ  
英人ホシテイル  
云ルアリ  
苦ヒ蘆薈  
ヤ其ヒ蘆毒ナ失鳩  
荅藥ナ五  
穀性ノ涼ナル  
佛田草熱ナル  
效子ト色々ニカ  
バルモ同ジ  
土カラシヤ  
ト此言ノ葉ヲ  
味ヘバ機カノ  
様

子ハ稍シレ支那ノ孟軻氏大  
慾ガ存スト云シ 食色ハ天性ナ  
レバ 豈特リ人ハツカリノ事ナラシ  
一ハ性命保護ナリ 一ハ品類蕃  
息ナリカハツタフガ 誰アロウ 動ハ  
顯レ 著シロク 植ハ 微ニシテ 見ハ

カタシ 故シラサレガ 多ケド 西洋  
ニテハ 其道理 疑ブクモ アラヌヤ  
ウ 詮義ガトウニ 出来テオル 葉ノ  
ウラオモテ 数シレヌ 細孔アツテ 呼  
吸スル サナガラ 動ノ 肺ノ 如根ノ 端  
タニ 口アツテ 膏腴ヲ 土カラ 吸

取スル飲ト食トニチガヒナシ  
 動植總テノ成分ニ有機ト無  
 機トノニツアリ有ハ可燃ノ質  
 コレナリ無ハ不可燃ノ質コレ也  
 今試ニ百斤ノ櫛材トツテ燃  
 ニニ烟ト共ニ逃去ルハ皆是有

機ノ成分ニテ氣ヨリ資タル  
 所ナリ其跡灰ト殘レルハ無機  
 成分ニシテ其量ハ僅ニ三斤半  
 ト云至テ些少ノ事ナレモ萌生  
 スルヨリ長大ニテ欠クベカラザル  
 者ニシテ土中ヨリ資ル所ナリ氣

ハ四素バカリ此四素ノ妙用更ニ  
カギリナシ酸水ノ合ハ尋常  
水ヲナシ水窒ノ合ハ則安謨  
垂土中ノ品ハ礦属ニテ則加  
基麻屈屈西食塩曹達剥  
薦亞斯燐酸硫酸類ナレバ

此品類ヲ覺ヘオキ養料液ヲ  
ノ中ニ夥モ有タシム是ヲ農家ノ  
要務トス 備又色ハ花コレナリ  
春ハ萬物精ノ滿慾ノ盛レル時  
シテ花ノ嬌麗ナルハ鳥獸ノ孳  
尾スルト同シナリ其ワケハ花ニ



辨アリ 單ヲナシ 又複ヲナス 母  
ニ 蕊アリ 雌雄ノ別ル 所ナリ 雄  
是ヲ 鬚 蕊ト云 茸々然ト 絲ノ如  
末ノ尖處ニ 圓珠アリ 黄ナル 粉ヲ  
吐ク之ヲ 葯ト云 鬚ハ 動ノ 牡莖ニ  
テ 葯ハ 羣丸 粉ハ 其精ナリ 雌

蕊一名 心蕊 花ノ心ニ 抽ク 其形  
枰ノ如シ 動ノ 牝門也 其末ヲ  
柱頭トス 細管ノ 短毛布テ 精  
ヲ受 其根ヲ 卵巢トス 精柱頭  
ヨリ入テ 卵巢ニ 達スレバ 種子神  
氣ヲ得テ 發生スル 動ト 何ニモ

カハリナシニ蕊一花ニ備ハルラ完  
花ト云備ハラサルラ倚花ト云倚  
花ハ枝ニテ變ルアリ 株テ變ルモ  
アルイシヤ枝ハ上下トアリ分テ精  
雨ヲ受ニ便スレ花分株ノ者ハ  
己ノガ身ノ動カヌ事故媒灼ガ

ナケレバ實ニ六ヶ敷ヒ其媒ヲ或ハ  
風或ハ蝴蝶蜂ナドモスルイアリト  
云イシヤ何分花ハ植物ノ陰  
具テアレバ實ノナルモノ固ヨリ花ノ  
ナキバナシ 蜜果ヲ無花果ト云ハ  
大杜選 其ヨナイカアルモノカ外ハ

ハ出子ト 實ノ中ニ 花ガトツクリ  
サヒテオル 彼蕨其ガ 葉ノ背ニ  
サクト同ジキ事ニシテ 場所ガカハ  
ツタ斗ナリ 唯動ノ陰ハ 腥羶惡  
ムベク 植ハ芳香 愛スベシ 是ヲ  
大異ノ所トス 蒙昧固陋ノ輩

ガ卒然聞バ 誕妄ノ虚談ト 喫  
驚スルハ 必然ナレト サウデナイ  
屹ト實地ニ 益ガアル 極メテ寒ヒ  
處テハ 草木モサラシ 実ガ出来ヌ  
暖地ノ花粉ヲ 包ミモテ 寒地  
ニ移シテ 花ノ上ニ 撒ヌレバ 実ヲ結

ブ又達徳<sup>ダツ</sup>ルト云樹<sup>キ</sup>ニ実<sup>ミ</sup>ハ出  
来<sup>キ</sup>レ共<sup>ニ</sup>エグウシテ其上<sup>ウヘ</sup>中<sup>ナカ</sup>ニ核<sup>クワ</sup>ガ  
ナイ雄穗<sup>オス</sup>ヲ剪<sup>キ</sup>取<sup>リ</sup>雌穗<sup>メス</sup>ノ上<sup>ウヘ</sup>ニ  
掛<sup>カ</sup>置<sup>ケ</sup>トキハ核<sup>クワ</sup>ガ出来<sup>デ</sup>実<sup>ミ</sup>モ耳<sup>ミミ</sup>羨<sup>ム</sup>  
クナルト云故<sup>ユヘ</sup>其品<sup>シヨウ</sup>ニツガ禾<sup>コ</sup>ノイ  
ヤツギ<sup>ハ</sup>ニ栄<sup>サカ</sup>サス巧<sup>タカ</sup>ナイデハナ

イカピナ夫<sup>ツ</sup>田<sup>タ</sup>ヤ畠<sup>ハタ</sup>ハ植物<sup>シヨク</sup>ノ牧<sup>ボク</sup>  
場<sup>シヤウ</sup>ナレバ百<sup>ヒャク</sup>姓<sup>シヤウ</sup>ノ職<sup>シヨク</sup>ハ牧者<sup>ボクシヤ</sup>ト云  
モノシヤ性<sup>シヨウ</sup>質<sup>シツ</sup>成<sup>セイ</sup>分<sup>ブン</sup>能<sup>ノウ</sup>シツテ有<sup>アル</sup>  
機<sup>キ</sup>ニハ有<sup>アル</sup>無<sup>ク</sup>機<sup>キ</sup>ニハ無<sup>ク</sup>ホトヨク肥<sup>コ</sup>  
糞<sup>フン</sup>ヲコシラヘテ貯<sup>タマ</sup>ヘザレバナラヌノ  
ハ猶<sup>ナホ</sup>彼<sup>カ</sup>牧<sup>ボク</sup>ノ澤<sup>タク</sup>山<sup>シ</sup>ニ芻<sup>ク</sup>料<sup>リョウ</sup>ヲ圀<sup>カウ</sup>

ト同ジイ去トモ此ニアルコトハ金  
汁ヨリシテ油糟 鯨バカリ礦属  
ハ石灰ノミシヤ 追々ニ世界モ開  
化ニ進歩シテ氣燈局ナド 處  
々方々出來ル様ニモナルナラバ  
煤ルイナトモ多カロガイツマデ草

ノイツナラシ 今ハ官許ノ協  
救社アレバ其社へ社入シテ豚  
ヲ蓄ヨリ外ハナイ 西洋ニテハ  
豚ノ數聞ケバ田畠ノ取上高  
問テモシレト云テオル支那ノ学  
者モ其通り是ヲ王道ノ

始トスケンカタヒ 程氏サヘ豚  
柵鶏棲 相對シ 開クト云詩モ  
作レバ 蓄レタルニモ 子ガヒナイ  
サテ英吉利ハ 炭酸ノ人ニ毒ジ  
ヤト云イヨリ 國ノ金汁ノ 絶タ  
イニ 派レル溝ヲユシラヘテ 皆海

中へ棄ルホト 田畠ニ於テハ  
疎漏ナガ 近來 奇雀糞ト云者  
ヲ大洋洲ヨリ 買入レテ 化學ノ餘  
カニ 務メシガ 物成昔ニ 倍シタリ  
皇國ハ元來 嶋ナレバ 二萬四千ト  
七百八十方里ノ 表面テ 田畠

ノ數ハ僅々ニ三千七十余万石  
四方海ニテ地續ノ切リ取リ  
拓ク場所モナシ夫故昔ハ朝  
鮮ヤ琉球迄モ取タレド其得  
アレバ失モアリ終ニ棄ル様ニナル  
ソシナイヨリ學問シ人々農事

ニ骨折ハ英通リ倍ニテモ六  
千一百四十万其上七千八千ニ  
ナルカナラヌカ白浪ノ外ニテ手  
指スルヨリハ必益ガ多カレシ當  
今暇ナル士族等モ此理ヲ得ト  
會得シテ皇國ノ御為トヒタ

スラニ 鋤鋤トツテ 務ムベシ シナ  
 レヌカノ 術ナレバ サヅ腰ヨソハ イタカ  
 ラメ 朝鮮攻ノ 兵卒ニ 役セラル、  
 ニ 孰クツヤ 愉快モアレバ 艱難モ  
 大河内氏ノ 物語リ 熟ラ、  
 ヨミテ 思ヒヤシ 縦ヒ 盤中 盛上ゲタ

ル 辛苦ノ 粒々 数ヘテモ 実ニ 所謂  
 九牛ノ 一毛 ヨリモ 軽カラシ



諸國弘通書肆

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 阪 同 西 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 府 京 井 宮 高 井 福 江 洲 高 井 福 江 洲 高 井 福 江 洲 高 井

大野木市兵衛 中川勘助 北尾禹三郎 遠藤平九門 大谷仁平 杉本甚助 辻本仁兵衛 神先宗八郎 佐系惣四郎 福井源次郎 北川多兵衛 酒井安兵衛 梶平喜平次 牧野元次郎 岡崎左喜助 万司曾平 千秋恒市 松井治兵衛

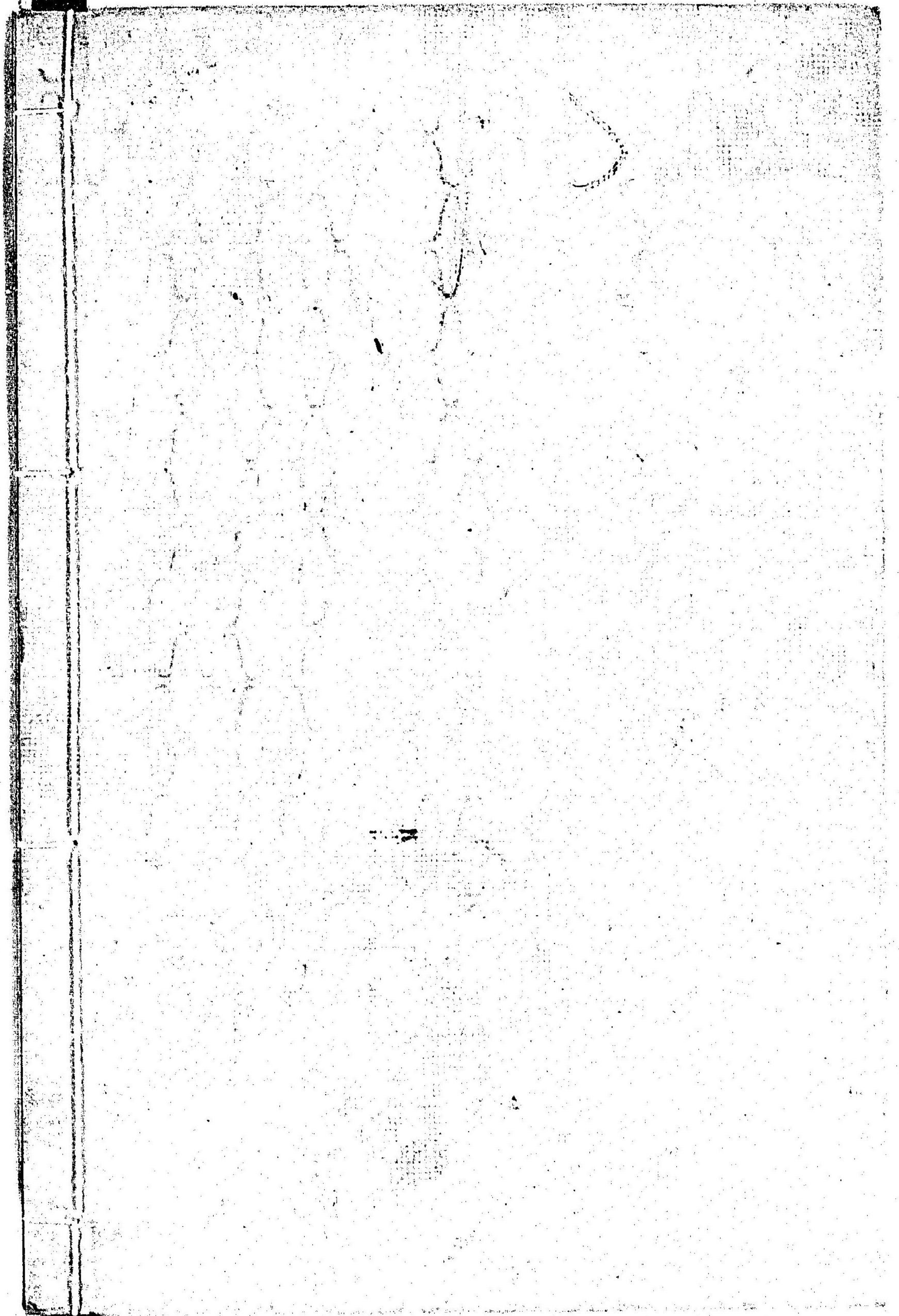
同  
 越 中 富 山 高 岡 澤 聖 寺

大橋甚語 守川吉兵衛 土井宇三郎 真田善四郎 車平治郎 中村喜平 近田善平 池越善兵衛 中越久七 供田太三 櫻井与三 本谷清七 野嶋信吉 馬淵董篤 金松伊三郎 平出雄太 室田良兵衛 鍛冶安兵衛

製本所

大聖寺 深城伊三郎

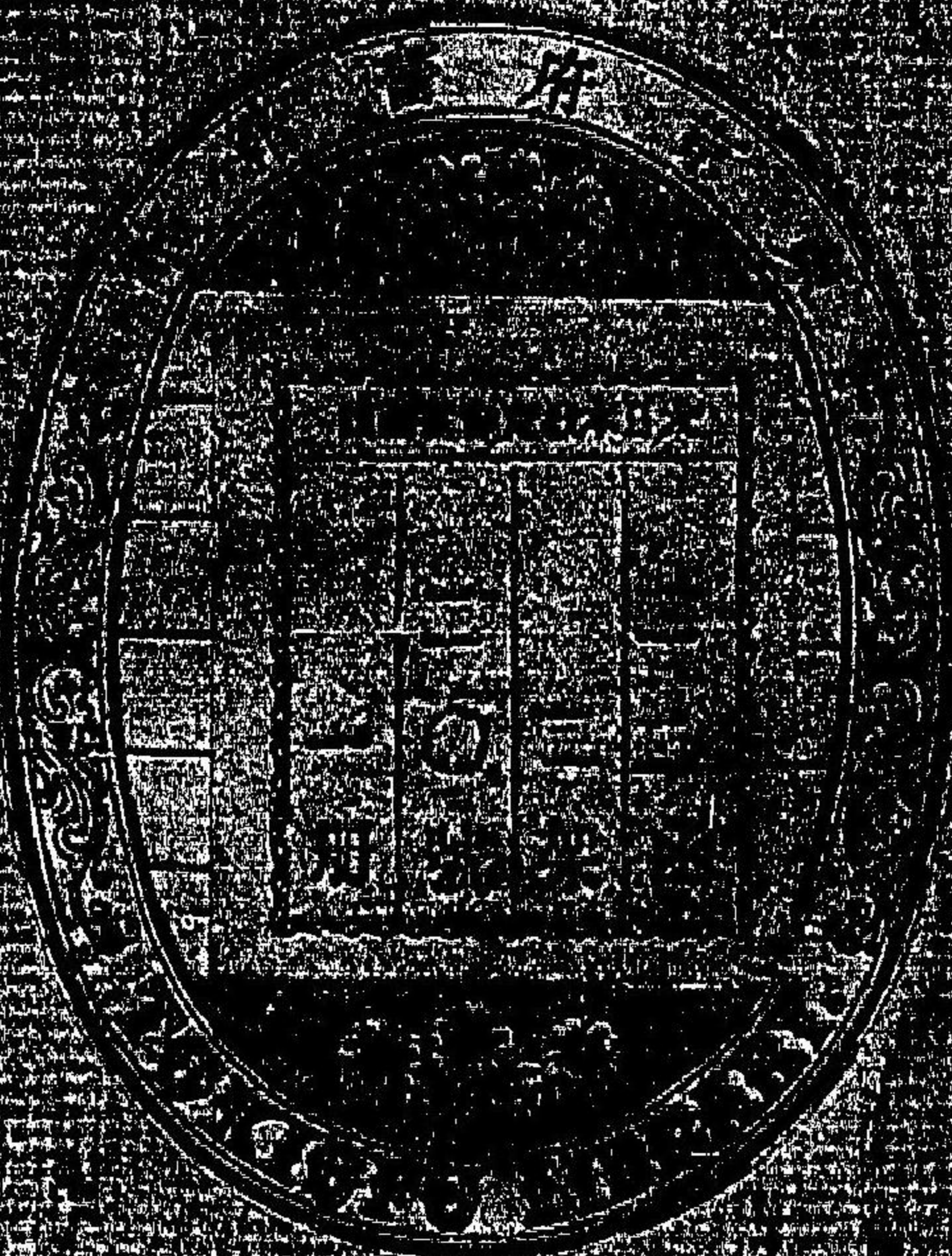
勸農文下篇終



特39

420

一本



061646-000-2

特39-420

勸農文

東方 真平/著

M7

CCA-0278

